

## F 分科会「歴史的な建物とまちなみ」参加者のコメント

### 事例発表1:北海道 「高校の先生たちとの住教育セミナー」

- ・私自信、高校の家庭科の授業の「今まで住んだ家の図面を書く」ことで設計の道に進みました。これからも続けてください。
- ・生徒ではなく先生に目をむけられた点がすごいと思いました。納得のお話でした。
- ・先生方が「住まい方が重要」という認識がなかった。というのが、やはり一般的だと思いますので、住まい方について考え方をわかりやすく伝えることが重要なんだと思います。北海道支部さんのとりくみは有効だと思います。
- ・10年の長きに於いて活動できたことに敬意を表します。
- ・神奈川県でも家庭科の先生に建築士が模型をつくってもらおうという試みを2011年度に行いました。是非いろいろ教わりたいと思います。
- ・子供の取り巻く環境が日々変化していく中で、どのような住まいづくり、環境づくりをしていかなければならないかと日々考え活動されている事がすばらしいと思う。
- ・先生方とセミナーはとてもいいと思いました。進路を決める手助けにもなると思います。
- ・高校の家庭科の先生たちの住居学の授業は、家庭科全体からすると少ない時間ですが、それがくわしい内容なのか、新しい知識なのかギモンでした。地元の建築士会でも協力できることがあればやりたいです。
- ・これまでの活動を大切にしてください。これからの展開を楽しみにしています。
- ・豊かな住環境をイメージする大切さということですが特に北海道の地域性はどうか
- ・先生自身が住環境の面白さに気づききっかけとなり、とてもよい活動だったと思います。将来の家族像（核家族は崩壊してるので）を想定して子供たちが既製概念にとらわれないプランができるともっと面白くなりそうな気がします。
- ・毎日居る空間でも知らない事が有り、全ては「住」から始まる...？
- ・幼少時代の住環境から受けた影響を考え、住まいの設計にいかしてゆくというので新鮮でした。
- ・4年間参加した先生は同じメンバーだったのでしょうか？  
住育が求められる中、こういう活動で建築士がかかわるのはよい事だと思います。
- ・「北海道の住宅が数年急速に変わった」もう少しくわしく伺いたいと思います。
- ・あたたかさと機能性は確保

### 事例発表2:鳥取県 「地域での防災学習をサポートしよう」

- ・「紙ぶるる」の活動はやってますが、いまいちの教材なので大型模型での実験をプラスするととても良いですね。参考になりました。
- ・大きな実物模型ですじかいの説明と体験付の授業は面白かったです。
- ・子供の時から防災を考える時間がありすばらしい活動だと思いました。
- ・実物を見せて、体感できるというのが子ども達への印象に残ってとてもよいと思いました。
- ・防災教育は子供からその子供が親になった時開花すると聞きました。地域に一步步根付いてる活動に感心します。

- ・防災に対する人々の意識は高まりつつありますが、実際に何らかのカタチで行動していくことは大切だと思います。
- ・防災意識を高めていく方法とし、実物大模型や紙ぶるる等で子供たちに体験してもらうことにより、日々の意識向上になっているのではないかと思いました。
- ・防災を楽しみながら学んでいるなと感じました。何事も楽しめないと身につかないと思うので。「紙ぶるる」は自分もやってみたいです。
- ・まちを歩いて、自分のすんでいる町はどんな町なのか、どこがあぶないのか、再認識するいい機会だと思います。
- ・子どもは実体験が大きな記憶となり大人になっても忘れず、昨年の災害に教訓として役に立つことが本当に実感として理解できた。
- ・平成 19 年から防災をテーマに継続していることの大切さを思います。子どもたちと具体的に作業を進めながらお互いつくりあげてゆくことがおもしろいと思いました。防災マップなどは世代をこえて出来そうです。
- ・紙ぶるる、木組（ブチ）など子供の興味をうまくひき出す教材づくり。建築士から消費者へのアプローチとに重要。滋賀も青年委員ベニヤドームで出前学習を長年やってますが、少しマンネリでいい教材を示していただきました。
- ・教科書で学んだことよりも実際に見たりさわったりした事の方が身につくので、紙ぶるるや軸組の模型はとて面白いと思います。
- ・地域を知る。今は遊びの中で知る事はあまり無く、学習の中からですね。
- ・机上だけではわからない事を実物で見たり、屋外へ出たり、あきさせないよういろいろ考えられていると思いました。
- ・2007 年からの継続されているのも素晴らしいと思います。
- ・「紙ぶるる」というものを知らなかったので、構造をわかりやすく体験できるものがあるのだなと思いました。

#### フィールドワーク「明倫学区の子どもの暮らし今・昔」

- ・町家を見せていただいてよかったです。
- ・職と住が離れた現代、「祭」というのが人々をつなげる手法で今後も生かされていくといいと思います。
- ・少子化になったりお世話する方達が少なくなった現在、みんながやりやすい状況にかえ、新しくしながらも伝統を守る行事等は保存していきたい。どこにでもある問題だと思います。
- ・素晴らしい格子の連続を満喫しました。忘れかけていた美しさを意識し、あっという間の良い体験でした。お話も心にしみ入りました。
- ・大変盛りたくさんの内容で大変勉強になりました。地域の問題点と取り組み、町家の再生、保存、様々な事に今後自分たちの発展にヒントをもらえた。とても良かったです。
- ・吉田先生のお話はあきる事なく楽しかったです。先生のような方が各地域にいらっしゃったら、どの町ももっと良くなるだろう。
- ・古くから住んでいる人たちと、新しく住み始めた人たちとの交流はどの町も課題になることで...
- ・地域のつながり（鯉山がんばってください）、おまつり（いつか、ぎおんまつりぜひいきた

いです！） なんだかうらやましく思いました。

- ・子どもたちに伝える文化がある（残っている）ことの大切さを感じています。  
釜座町家の改修の記録はすばらしいと思いました。ひとりひとりの職人さんがプライドをもっています。
- ・暮らし（コミュニティ）にあつてのまちづくりというテーマに添った生の発表だった。  
震災後の復興にもハードだけではなくソフトの面での活動が大事だということにもつながると。
- ・訪れた所すべてに満足でした。
- ・明倫学区のみでは無く、今私の住んでる地域も子供が少なくあき屋が増え...考えさせられる思いでした。
- ・住む地域と祭り、住環境が大きくむすびついている京都を改めて感じました。  
その一つのバランスがくずれた事により伝統の継承が難しくなり、多くの人々を悩ませる事となった様ですが、多くの人々の共通の願い「子供達の未来を守る」という気持ちのもと新しいマンションの形、祭りの形を作り出されているのがよくわかりました。
- ・大人が意識を変えないと子供の環境は変わらない。
- ・観光地京都からは想像できなかった素顔の京都のまちが知れてよかったです。  
偶然にもこの町に住む事になったマンションの住人。せっかくの「京都の伝統」を1つの核としてコミュニティーをつくって行ってほしいと思います。  
鯉山町マンションの子供達は新たな古里を持って幸せだと思います。
- ・昔と今がすごくわかりやすく、生の声が聞ける機会があり、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。
- ・伝統や豊かな暮らしの文化を伝えるための努力をまじかに体験できたことが大変良かった。  
異なる価値観の共存...それは地域にもあり、家庭にもあり、会社にも存在している。  
私たちが共存共生するには、伝統を守りながらも未来を想像していくことである。
- ・次へのつながりがちょっと心配ですが。

## F 分科会およびフィールドワーク全体を通して

- ・濃厚で素晴らしいFWでした。時間的にはタイトでしたが充実した一日となりました。
- ・家庭や地域、その上に行政と内部会員の勉強にとどまらず対外部の方々とかかわってこれている活動に感動しました。
- ・もりだくさんの内容で、とても楽しいフィールドワークでした。
- ・フィールドワーク、楽しい勉強をさせていただきました。
- ・事例発表・フィールドワークの感想をみなさんから伺うことができ大変参考になりました。
- ・大変楽しかったです。実行委員会の皆さまとスタッフ等、多くの方々の情熱が伝わりました。  
大変お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・FWがとにかく良かった。
- ・観光としてお寺まわりもあるが建築にかかわる者として裏メニュー的に裏通りツアーも楽しいなと思いました。
- ・吉田さんのお話おもしろかったです。
- ・盛りだくさんのプログラムでどのような分科会になるのかとっていました。

どの発表も何ら実践している姿が印象的で継続してゆくための工夫や努力はすばらしいなあと思いました。

- ・町屋見学の時間をもう少しとってほしかったです。ふだん何気なく通っている場所ですが、今、昔の町内の移りかわりと町が変わっていく様子がよく理解できた。
- ・全体的にまとまっていてとても有意義な会でした。京都に住みながら、行きたいと思いつつ行けなかった所に行けたのでうれしかったです。ありがとうございました。
- ・参加させて頂きありがとうございました。  
街・町・まちづくりが全ての日本の中のテーマだと思いました。  
そして人づくりから始まるのかなあ？
- ・盛りだくさんで楽しかったです。吉田様や北村様の話をもう少し聞きたかったです。
- ・子供のためによい原風景が必要。建築をはじめとする住環境が大事であると思う。
- ・盛りだくさんの内容で得るものも多くありました。
- ・すごく良かったです。スタッフの皆様、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・建築士の役割

各建築士会および地域での活動をお聞かせください。

- ・建築学会といっしょに年3回「親と子の都市と建築講座」をやっています。参加する子供を集めるのが大変ですが、来てくれた子供の喜ぶ顔を見るのが楽しみで続いています。
- ・H23年度から誰でも参加できるように「LED de ものづくり・イルミネーション」「おかしの家を作ろう」を独立させて、士会からの社会的支援より助成金をいただき活動しています。
- ・子どもの生活環境部会の一員として活動しています。地域の古民家再生にも関わりながら、古いもの、人々が大切にしてきたもの、精神について考えているところです。
- ・これといった活動はしていないのが現状です。
- ・小学生と保護者とまちを歩いて、こんな町にしたい、こんな建物をたてたいとか、ワークショップを過去にやりました。今は間板材の勉強をしています。  
山に入って間板（バツ）材のばっさい現場見学、丸太小屋見学、製材所見学、木工製品、薪ストーブ、木工体験
- ・京都の方々、他スタッフの方々、ほんとにおつかれ様でした。ありがとうございます。
- ・京都建築士会の皆さん、今日の日まで準備から運営まで大変おつかれ様でした。  
おかげさまで有意義で思い出に残る2日間でした。
- ・古材を生かすということで高島で研修を行ないました。
- ・いろいろ参加させて頂いていますが、私自身、活動にまで進めていない気がします。
- ・地域では、まず建築士の方に士会に入っていただく。入った方は一緒に活動していけるように、ということを中心に地域活動を行っています。

ご協力ありがとうございました。